

学 会 名

第25回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in岐阜
(2024年11月15日～11月16日)

研究テーマ

院内における感染ゴミ廃棄費用の削減

病 院 名

医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演 者

○西條真紀(看護師)
遠藤千恵(看護師)三浦ふき子(看護師)阿部美穂(看護師)
後藤尚美(看護師) 藤澤昌弘(理学療法士)勝又貴夫(医師)
武内修平(事務) 平塚由美(介護福祉士)

概 要

【研究背景】

2020年より新型コロナウイルス感染症が流行し、この数年は多くの病院が院内感染拡大への脅威だけでなく、感染対策にかかるコストについても頭を抱えている状況であった。当院においては、2022年度は特に、新型コロナウイルス感染症の病棟内での集団発生に加え、疥癬発症患者への対応など、例年以上に感染対策へのコストがかかってしまった。経済的な問題についても自分達の重要な問題として受け止め、感染に関わるコストについて見直したいと考えた。そこで、院内感染対策委員会のメンバーが中心となり、コスト削減に向けた改善活動を行うこととした。

【テーマの選定】

院内感染対策委員会のメンバーで結成した「チームファイティン！」では、感染に関わる費用の削減の視点から、改善が必要と思われる4つの問題（感染ゴミ廃棄費用、抗菌薬費用、PPEにかかる費用、院内感染関連費用）を持ち寄った。これらを7つの視点（共通のテーマ、取り組みやすさ、データの取りやすさ、緊急度、重要度、部門目標・理念、効果）で評価しテーマを「院内における感染ゴミ廃棄費用の削減」に決定した。

【現状把握】

感染ゴミ廃棄費用や一日あたりに排出される感染ゴミの量、感染ゴミ量と院内感染との関連について調査した。

①感染ゴミ廃棄費用の推移を調査

2022年度は月平均約68万円と、過去3年間で最も感染ゴミ廃棄費用がかかっていたことが分かった。ひと月に100万円を超える月もみられた。調査時の2023年4・5月は月平均52万円で、2022年度の平均68万円よりは抑えられているものの、2021年度の平均49万円よりは費用が掛かっている現状が分かった。

②感染ゴミの部署内訳を調査

感染ゴミは平日一日約14.5袋（1袋1,300円、計18,200円）出されており、その中の約8割は病棟から出ていた。特に医療処置の多い療養病棟からの廃棄量が多かった。

③感染ゴミ廃棄費用が多い月と院内感染の関連を調査

2022年度の感染ゴミ廃棄費用の推移を調査したところ、月平均100万円を超えた9月・11月は病棟内で感染拡大があった。やはり病棟内で感染が拡大すると感染ゴミは著しく増加することが分かった。

【目標設定】

感染ゴミ廃棄費用を、2023年10月末までに、平均520,000円（2023年度4・5月）から月468,000円以下に削減する。

管理特性：感染ゴミ廃棄費用＝院内で発生する感染ゴミを廃棄するためにかかる毎月の費用とした

感染ゴミの多くは病棟から出されているが、外来・通所リハ室をはじめ全ての部署での対策の徹底が必要と考えたため、院内全体で取り組むこととした。また、2023年4・5月の廃棄費用の52万円を目安に、さらに削減を図ることで、2022度の廃棄費用年間平均68万円から大幅な削減につながると考えた。

【活動計画】

改善活動に計画に取り組むため、テーマ選定、現状把握・目標設定、要因解析、対策立案、対策実施、効果の確認、標準化と管理の定着の項目ごとに、メンバーの担当と活動予定を立て、ほぼ計画通りに活動できた。

【要因解析】

特性要因図を作成し、感染ゴミ廃棄費用が増えている要因を解析し、5つの重要要因が抽出された。

- ①感染ゴミの分別を正しく行えていない
- ②スタッフが感染ゴミ費用を把握できるしくみがない
- ③コロナ禍でPPEのルールが徹底されているため感染ゴミが増えてしまう
- ④感染対策を正しく行えていない
- ⑤感染ゴミ廃棄に多額の費用がかかっていることへのスタッフの意識が低い

抽出された重要要因が真の要因であるかどうか検証するため調査を行った。その結果①②④⑤の4つを真の要因とした。

【対策の立案と実施】

4つの真の要因に対し三次対策まで立案し3つの視点（重要性、実現性、効果）から採否した。その結果、5つの対策が採択され、採択された対策について5W1Hで実施した。以下、採択された5つの対策を示す。

- ①TQMメンバー（感染対策委員）が正しい感染対策について模範となる行動を行い、日常場面での指導を行う
- ②見直した分別表を感染ゴミの廃棄場所へ掲示し常に見ることができるようにする
- ③削減したい「金額」を「ゴミ袋数」に換算し、具体的にイメージできるよう可視化し各部署にポスター掲示する
- ④各部署で勉強会を開催し、感染ゴミを減らすため、正しい分別を行い、無駄なPPEを使用しないよう周知する
- ⑤毎月院内情報共有システム（デスクネッツ）で、感染ゴミ廃棄費用を全職員へ周知する

＜中間点検と追加対策＞

・目標の「月468,000円以下」に向けて7月より上記の対策を実施したが、7月582,000円、8月741,000円と感染ゴミ廃棄費用は増加してしまった。
感染ゴミ廃棄費用が増えた原因＝コロナ感染症患者が発生及び角化型疥癬の再燃疑い患者が発生したことが考えられた。
・追加対策として、TQMメンバーが、毎月病棟やリハビリ室をラウンドし、感染ゴミの分別状況、PPE使用状況を確認し現場での指導を行った。

【効果の確認】

「感染ゴミ廃棄費用を2023年10月末までに520,000円から月468,000円以下に削減する」という目標に対し、10月は457,600円となり目標を達成した。

＜無形効果＞

- ・職員の感染ゴミの分別の意識が高まり、手袋やエプロンを用途別で分けし廃棄するようになった。
- ・無駄なPPE装着が減少した。

＜波及効果＞

- ・コロナの発症は見られたが、クラスターにはならなかった。

【標準化と管理の定着】

＜標準化＞

- ・感染ゴミの分別ルールを感染対策マニュアルに追加する。廃棄場所へ掲示する。

＜教育＞

- ・感染ゴミ廃棄費用削減の対策について部署内で勉強会を行う。
- ・毎月の感染ゴミ廃棄費用を職員情報共有ツールで周知する。

＜管理＞

- ・感染ゴミ削減のための対策実施状況を、ラウンド時評価表を用いて評価し部署へフィードバックする。

【反省と今後の進め方】

ステップごとに良かった点・悪かった点・今後の進め方について整理した。

＜良かった点＞具体的な対策を立案し実施できたこと。

＜悪かった点＞要因が混在し整理に時間がかかったこと。

＜今後の進め方＞感染ゴミの削減について年度単位で目標値を設定し意識しながら活動を継続していく。

【おわりに】

様々な感染症による院内での集団発生リスクは常にある。よって、今後も基本となる感染対策を徹底しながら感染に関わる経費についても意識し削減に向けた取り組みを継続していきたい。